

学びの風便り

リーディングスクール通信 51 R7.9.30

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



❁ 学びの改革のあゆみ 筑摩小学校・リーディングスクールラボ ❁

❁ 筑摩小学校 子どもたちの「やりたい」の実現に向けチャレンジ！ ❁

これまでリーディングスクールとして、「『やりたい』を見つけ自ら行動する子ども」を目指し歩みを進めてきた筑摩小学校。3年目を迎えるにあたり、「チャレンジ！ 始める一歩・続ける一歩」を合い言葉に、新たな歩みを踏み出しました。子どもたちの「やりたい」の実現に向けチャレンジしているプロジェクトを軸に、筑摩小学校の学校づくりの歩みをご紹介します。

チャレンジ！ 単元内自由進度学習

6月には、2年間の取組みの成果を、教育研修センターの講座「実践校に学ぶ単元内自由進度学習」として実施しました。市内の小中学校 24 名の先生たちと筑摩小の全教員が、4年生（国語「お礼の気持ちを伝えよう」算数「小数」：2教科同時公開）と6年生（算数「分数÷分数」社会「天皇中心の国づくり」図工「くるくるクランク」：3教科同時公開）の2学年の授業を参観しました。



自分で学びたい教科を選択・計画し、自分のペースで進めていく子どもたちの姿を見て、参加者からは「自由進度学習の具体的な準備品や計画表など、実践的な様子を拝見することができ、大変勉強になりました」「2年に渡る実践の努力から、本日のような互いに学び合い自ら学習を進めていく子供たちの姿が出来上がっていることをひしひしと感じました」「『明日から、実践してみよう!』』と思える研修会に参加できることは、とても有意義だなと感じます」などの声が寄せられました。

7月には、5年生が、算数「合同な図形」保健「けがの予防」の2教科で、3年生が算数「表とグラフ」で、単元内自由進度学習を実施しました。子どもたちからは「算数が好きになってきて、うれしかった」「自由進度で学習したことを生かしてこれからも学習していきたい」などの前向きな言葉が多く聞かれました。2学期には、低学年も含め、子どもたちの「やりたい」の実現に向けて、単元内自由進度学習を実施していきます。

チャレンジ！ 子どもたちの「やりたい」を実現 ～フリースタイルプロジェクト～

昨年度から「自分の興味・関心のある活動を追求することを通して、自主性・社会性を養い、個性を伸ばす」ことを目指し、4年生から6年生を対象に「フリースタイルプロジェクト」を実施しています。2年目を迎える今年は、子どもたちからの「もっと時間を増やしてほしい」という要望に応え、活動時間を拡大し、発表会を含め、全 15 時間のプログラムとしました。

子どもたちが選んだ活動は多彩で「裁縫、人形づくり、手芸、調理、折り紙、将棋、タイピング、けん玉、野球、サッカー、陸上、ハードル走、太鼓、ピアノ、粘土細工、水族館の研究、英語、韓国語、…」など、多岐にわたります。



「家族全員ホットケーキが好きな。お父さんとお母さんは甘いものが好きじゃないのに、ホットケーキだけは好きだから、おいしいホットケーキを焼くの。今日作ったら家族に食べてもらうんだ」と楽しそうに話し調理に励む A さん。「エレベーターのことを研究して2年目になる。今年は大好きなエレベーターの場所に行き、エレベーター会社の人にいろいろお話を聞き教えてもらい、

その様子をビデオに撮ったので、それをCanvaにまとめている」とタブレットで編集している B さん。

「自分のやりたい」を追求する子どもたちは、饒舌で笑顔で、語るエピソードもステキです。10月22日の発表会に向け、子どもたちは、「やりたい」を実現した成果を、どんな形で表現しようか楽しみながら追求しています。

チャレンジ！学校行事をつくるプロジェクト

今年度から「チャレンジ！始める一歩」として、運動会や音楽会などの「学校行事を子どもたちとつくりよう」プロジェクトを始動しました。運動会に向けては、教務主任の北野先生が、3月に3年生から5年生の子どもたちに概要を説明し、4月に募集をしたところ、「自分からやってみたい」と11人のメンバーが集まりました。そのメンバーが実行委員会となり、「今までより楽しい運動会、みんなでつくる運動会にしたい」という願いを共有し、形式的になりがちな「開閉会式」などを中心に見直しました。運動会最初の競技準備運動は、今まで行っていたラジオ体操から、実行委員会が提案した「ジンギスカン」ダンスに変更し、楽しいスタートになりました。



子どもたちからは「運動会実行委員会が、がんばって、きかくしてくれたから、みんなと協力してきずなが深まったし、ダンスを踊るのが楽しかった」「みんなで力をあわせて声も出せたから、最高の運動会になったと思う」「小学校最後の運動会で、自分も楽しめたけれども1～6年生みんなが楽しく運動会をしていて、頑張ったかいがあったなと思ったし、大玉送りでいっぱい練習して成果を出し切れたからとてもいい運動会になった」などの声が聞かれました。現在、2割の子どもたちが来年度実行委員を希望しています。来年も「一人ひとりが輝ける場」を目指し、「みんなでつくる運動会」の実現に向け、より多くの子どもたちの意見を反映しアップデートできればと考えています。

チャレンジ！支える先生たちの姿

子どもたちの「やりたい」を支える先生方について、教頭先生と校長先生は、次のように話されます。

- 子どもたちを支える先生たちの取組みこそが筑摩小の宝。みなさん快くやってくれています。職員研修などでも「ここが課題だ」と出されても、「だからやめよう」ではなく、「こんなアイデアがある」と解決方法をだしてくれる。この先生たちの前向きにやろうという土壤があるから、子どもたちに伝わっているのだと思います。
- フリースタイルプロジェクトも単元内自由進度学習も行事をつくるプロジェクトも、クラスや学年を超え、つながっていることに大きな意味があり、「やってみよう」とチャレンジする子どもたちが多くなってきました。リーディングスクールになり、県内外の先進校へ視察に行き、それを推進力に学校全体で取組めていることが大きな成果につながっています。この主体的に取組む先生たちがモデルになり、その姿を見て子どもたちも主体的に「やりたい」を実現しようとしていると思います。

筑摩小では、プロジェクトの成果・課題を共有する場として、定期的に「職員研修」を実施しています。これからも職員研修を重ね、みんなで「子どもたちのやりたい」の実現に向け邁進していきます。

第2回 リーディングスクール・ラボ 教育哲学研修のお知らせ

○期日 10月28日（火）

○会場 教育文化センター

○日程・内容

・開会 13:30

・参加校20校による中間アウトプット会（グループ協議） 13:45～15:15

参加校ごとブースを設置し、資料（PC画面、紙、実物等）を用いて、各校の取組状況を発表します。参加者の皆さんは、フィードバックをお願いします。

○教育哲学研修 15:25～16:50

講演 西郷孝彦先生（元世田谷区立桜丘中校長）

「『子どもが主人公』の哲学 ～ 学校づくり実践編 ～」



※「校則もない、制服もない」を公立の中学校で実現し、“日本一自由な公立中学校をつくった”と言われている元中学校長、西郷孝彦先生のお話から「子どもが主人公」の意味を問い直す機会にしましょう。